

世田谷区立世田谷中学校
校長 今田 敏弘 様

世田谷区立世田谷中学校
学校関係者評価委員会
委員長 後藤 彰夫

令和3年度 学校関係者評価報告書

本年度の学校関係者評価について、以下のようにまとめたので報告します。

1 評価対象ごとの評価結果の分析

肯定的な評価（A とても思う、B 思う）の割合が8割程度を目標達成の判断目安とし、協議した。肯定的な回答がやや低い項目（8割以下）であっても、実態と学校の取組状況を総合的に判断した。

〔1〕生徒

学習指導、生活指導、学校行事、部活動については、ほぼ8割以上の肯定的な評価であり、特段の課題はないと思われる。

中でも、とりわけ

1-(2) 「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」 (A+B 91.5%) * 1、

3-(3) 「先生は、生徒の意欲を大切にしている。」 (A+B 89.4%)

5-(1) 「先生たちは、生徒にいていねいに指導している。」 (A+B 90.7%) * 2、

と、教員への評価が高く、強い信頼感に結ばれ、

3-(1) 「学校は楽しい。」 (A+B 85.7%)、

3-(2) 「学校行事は達成感がある。」 (A+B 85.3%)

と、多くの生徒が、学校で健全に楽しく過ごしていることが分かる。

また、

8-(2) 「学校や生活の中で、物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがある。」 (A+B 85.1%)、

8-(3) 「学校や生活の中で、他の人から認められたり、ほめられたりしたことがある。」

(A+B 84.8%)

の項目の評価も高く、校長の目指す「非認知能力を高め、理想や希望を叶える力の育成」に向けて、学校全体として着実に歩んでいることが伺える。

「1 学習指導」の評価では、前述の1-(2) * 1 (A+B 91.5%)を筆頭に5つの項目全てで高い評価を得ている。また、5-(1) * 2 (A+B 90.7%) においても、授業を含めて、教員への評価は高い。

しかし、

6-(3) 「私は、家庭で宿題やe-ラーニングなどで学習をしている。」 (A+B 58.3%)

8-(6) 「タブレットを活用し、以前よりまとめたり、表現する力が高まっていると思う。」

(A+B 62.3%)

の項目では評価は高くはない。特に6-(3)は保護者評価も低く(A+B 43.3%)、この点は課題と言える。

6-(5) 「学び舎の小学校へ行ったり、小学生が来たりする機会がある。」 (A+B 28.2%)

の項目の評価も大変低い。コロナ禍により交流活動が大きく制限され、結果数値が低いのは致し方ないが、方法を工夫するなど対応策を講じ、学び舎の児童生徒のつながりを維持してほしい。

〔2〕保護者

3-(1) 「学校行事は、子どもにとって楽しい。」 (A+B 87.6%)、

3-(2) 「学校行事は、子どもにとって達成感がある。」 (A+B 90.5%)、

3-(3) 「本校は、子どもの意欲を大切にしている。」 (A+B 83.7%)、及び

6-(1) 「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」 (A+B 84.8%)

これらの項目、とりわけ学校行事を中心に、子どもたちが楽しく、達成感をもって学校生活を送っていることへ、保護者は高い評価とともに学校への信頼を寄せていると考えられる。

- 一方で、否定的な評価 <C あまり思わない、D 思わない> の割合が高い項目として、
10-(1) 「私は、学校公開に進んで参加している。」 <C+D 39.4%> :参考(A+B 55.2%)
10-(2) 「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などに進んで協力している。」
<C+D 42.1%> :参考(A+B 51.2%)

があり、数値的には保護者の学校や地域への消極的な姿勢の現れとも考えられる。小中学校間の交流活動が減少していることと同様、保護者と学校・PTA・地域との関係性にもコロナ禍の影響は大きいですが、方法の工夫とともに従来の在り方を見直すチャンスと捉えて、よりよい関係づくりが図られることを望む。

〔3〕地域（・保護者）

開かれた学校の観点から、

3-(1) 「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。」(A+B 95.5%)
の評価は、

保護者：8-(1) 「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」(A+B 90.3%)
の評価とともに大変高く、学校からの地域・家庭への情報提供は適切に行われていると考える。

また、生徒を預る学校にとって最も重要な点の一つである安全面の観点からは、

6-(1) 「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」 (A+B 87.9%)
の評価は、

保護者：12-(1) 「本校は、安全な学校づくりを進めている。」 (A+B 80.9%)

12-(2) 「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、
子どもの安全に関する指導をしている。」 (A+B 86.9%)

の評価とともに高く、学校の日々の努力のたまものと考えている。

一方で、例年同様、学校協議会・合同学校協議会・学校運営委員会の活動に関しては、（E 分からない）の評価の占める割合が高く、活動の様子を知らせ、協力いただく方策を考える必要があると考える。

2 学校への提言

(1) 新たな学びへの取り組み

生徒・保護者の評価において、通常の授業や教員の生徒への指導・支援に対しては、高い評価を得ている。その一方で、ICTを活用した学校・家庭での学びに関して十分満足のいく評価は得られていない。校長の更なるリーダーシップのもと、力量のある教職員集団と学校組織により、これから生きる生徒に、従前のものにとらわれないより良い学び・新たな学びをつくりあげていく取り組みを求める。

(2) 目指す生徒像実現への取り組み

生徒への学校独自項目 8-(2,3,4,5)に関しては、今年度も70~80%台と高い評価であり、着実な進化を遂げていると考えるが、世田谷中学校の教育の根幹をなす項目であり、90%以上の評価となる日々の取り組みを求める。

(3) コロナ禍後をも見据えた方策

子どもたちはもとより、学校・保護者・地域との三位一体となった歩みが学校には必要である。コロナ禍により希薄にならんとする関係を今一度結びなおし、協同していく活動を積極的に行うことを求める。

3 総合所見

コロナ禍という経験のない「非日常」の生活が日常となって丸2年となる。この1年も多くの制約や困難に関わらず、自己評価報告書及び学校関係者評価等によると、学校として様々な活動に取り組み、大きな成果を挙げていることは高く評価したい。今後は上記の提言に加え、さらに山積する様々な教育課題に対して、地域運営学校としての機能を最大限に生かし、学校としての考え方や取組方法について最善の方策を生み出し、その実践を望む。

この学校に関わる生徒、保護者、地域及び教職員等が、共に自信と誇りのもてる世田谷中学校となるよう、継続と新たな教育活動に取り組んでもらいたい。

令和3年度 世田谷区立世田谷中学校 学校関係者評価委員会			
委員長：後藤彰夫	委員：木村美紀	委員：由良孝江	
委員：遠藤麻紀子	委員：室田久子	事務局：鴨下幸夫	